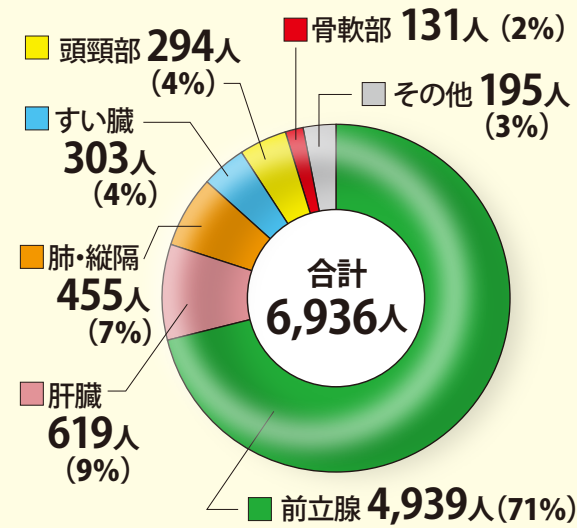


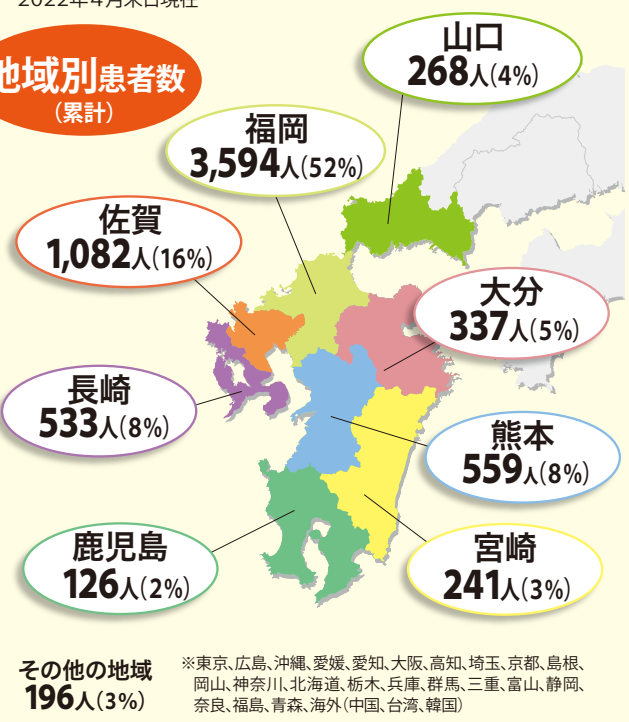
## データで見るサガハイマツト

### 部位別患者数 (累計)

※その他は、直腸(骨盤内再発)、  
腎臓、リンパ節他



### 地域別患者数 (累計)



# サガハイマツト通信

Vol.34

(2022年5月号)

## 4月からさらに5部位が公的医療保険適用拡大



### サガハイマツトへの交通アクセス

所在地 佐賀県鳥栖市原古賀町3049番地

#### 九州新幹線ご利用 ※新鳥栖駅まで最速

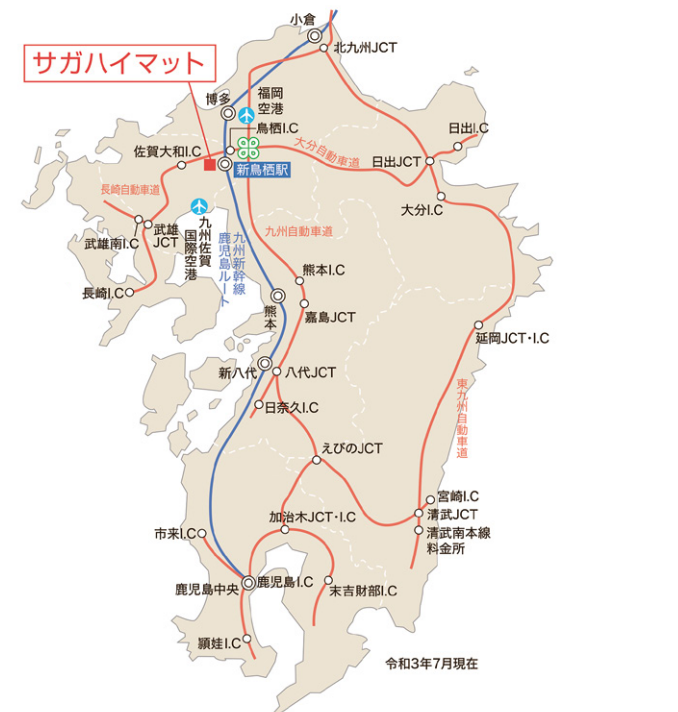
- ・博多駅から約12分
- ・熊本駅から約24分
- ・鹿児島中央駅から約71分

#### JR長崎本線特急ご利用 ※新鳥栖駅まで最速

- ・博多駅から約25分
- ・佐賀駅から約13分

#### 車ご利用

- ・九州自動車道「鳥栖IC」から約10分
- ※国道34号を佐賀方面に進み元町交差点を右折後直進、新鳥栖駅北入口(左手にコスモス)を左折後すぐ
- ※鳥栖ICは出口が数か所あります。料金所を出て2か所目(国道34号鳥栖市街地方面)出口までお進みください



### ●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマツトへのご支援をよろしくお願いいたします。

なお、当財団へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

### サガハイマツト通信 Vol.34

(2022年5月号)

【お問い合わせ】  
発行 公益財団法人 佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当)馬場  
所在地 〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町 3049 番地  
TEL 0942(81)1897 FAX 0942(81)1905  
HP <https://www.saga-himat.jp/>

### CONTENTS

- 塩山善之 センター長 インタビュー  
公的保険の適用拡大で重粒子線がん治療がより身近に
- データで見るサガハイマツト ～部位別患者数と地域別患者数～



サガハイマツトは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

### サガハイマツトの受診に関する相談窓口

電話 0942-50-8812  
(受付時間:平日の9時~17時)  
メール [saga-himat@saga-himat.jp](mailto:saga-himat@saga-himat.jp)



九州国際重粒子線がん治療センター(サガハイマツト)

# 公的医療保険の適用拡大で 重粒子線がん治療がより身近に

塩山センター長  
インタビュー

九州国際重粒子線がん治療センター(サガハイマツト)は、2013年8月から治療を開始し、9年目となりました。重粒子線がん治療は、高い治療効果が期待できる半面、公的医療保険の適用がない部位の治療費については患者さんにとって大きな経済的負担となっていました。これまでに、骨軟部腫瘍、前立腺などの部位に公的医療保険が適用されてきましたが、ことしの4月から、新たに肝がんの一部やすい臓がんなど五つのがんが公的医療保険の適用となります。4年ぶりの保険適用拡大でより身近になる重粒子線がん治療について、九州国際重粒子線がん治療センターの塩山善之センター長に聞きました。



九州国際重粒子線がん治療センター  
センター長 塩山 善之氏  
しおやま・よしゆき  
1990年、九州大学卒、医学博士。九州国際重粒子線がん治療センターセンター長。放射線治療専門医(日本医学放射線学会/日本放射線腫瘍学会)、がん治療認定医・がん治療暫定教育医(がん治療認定医機構)

■重粒子線がん治療について教えてください。

重粒子線がん治療は放射線療法の一つで、炭素イオン(重粒子)を光の速さの約70%まで加速し、がん病巣に狙いを絞って照射する治療法です。体内の狙った深さにエネルギーのピークをつくり、がん病巣の位置に合わせることで集中的に照射でき、正常細胞のダメージ(副作用)を最小限に抑えることが可能です。エックス線やガンマ線など従来の放射線治療に比べ、がん細胞を殺傷する能力が2~3倍と高く、また骨肉腫など放射線に抵抗性のあるがんや大きながんにも治療の可能性が広がります。

■サガハイマツトの特長は何ですか。

サガハイマツトが提供する重粒子線がん治療は、体を切らずに済み、治療回数が少なく、通院で

治療ができることから、仕事など日常生活への影響を最小限にとどめることができます。

また、JR新鳥栖駅の目の前という立地の良さから、九州一円からも通院しやすいのが特徴です。2013年8月の治療開始後、今年3月末までに6838人の患者さんに重粒子線治療を提供しました。コロナ禍ではありますが、多くの方々から支持いただき、この数年は年間1100人以上と多くの患者さんを治療させていただいております。

■新たに公的医療保険適用となるがんとその重粒子線治療について教えてください。

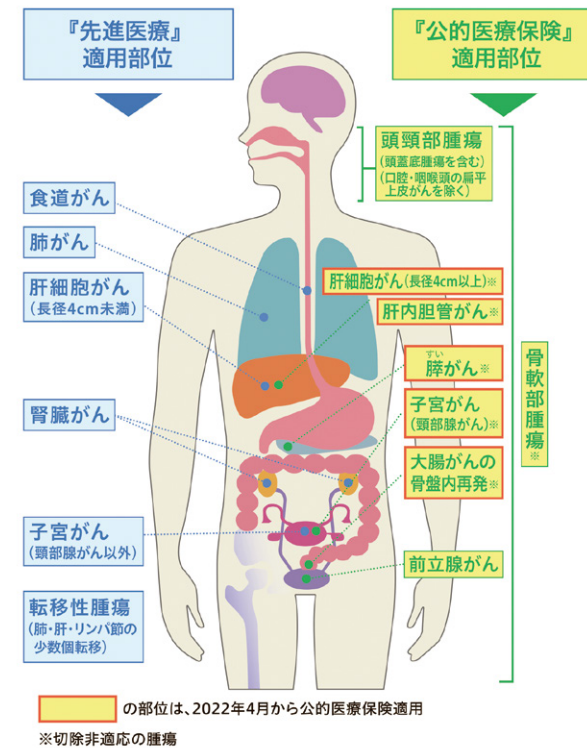
今回公的医療保険の適用となったのは、肝細胞がん(長径4センチ以上)、肝内胆管がん、膵がん、大腸がんの骨盤内再発、子宮頸部腺がんの五つです。いずれも手術による根治的な治療が困難なものが対象となります。2016年から蓄積を始めた全国登録データの治療成績で、重粒子線がん治療の有効性が既存の治療法と比べて高く副作用も少ないことなどが認められ、今回の適用拡大につながったのだと思います。

大腸がんの骨盤内再発については、直腸だけでなく、結腸を含む大腸がん全体の骨盤内再発について認められたことも大きいと思います。

子宮頸部のがんは、エックス線が効きにくく、転移もしやすい腺がん、エックス線治療が比較的効きやすい扁平上皮がんがあり、今回は腺がんに適用されました。扁平上皮がんの大きなものでも、

## 4月から新たに五つの部位に適用

◆重粒子線がん治療の対象となるがん◆



黄色の部位は、2022年4月から公的医療保険適用  
※切除非適応の腫瘍

重粒子線治療ではとてもよい成果を上げていますので、次回以降の適用を目指し、データの蓄積に努めたいと思います。

肝細胞がんは、小さいものであればエックス線でも治療できますが、腫瘍の大きさが4センチを超えると対応が難しくなります。4~5センチを超えたがんには、重粒子線治療の優位性が明らかになっていますので、その点が評価されたものと考えています。

■公的医療保険の適用拡大のメリットを教えてください。

これまでの、先進医療としての治療費314万円全額が患者さんの自己負担となっていました。今回、公的医療保険の適用となったことで治療費が237万5千円となり、自己負担額は、年齢等によって異なりますがその治療費の3割までとなります。さらに高額療養費制度も利用できますので標準的な所得の家庭の場合、自己負担額は10万円程度となります。

公的医療保険の適用拡大で、これまで経済的な理由で重粒子線がん治療を諦めざるを得なかった患者さんにも治療の選択肢が増えることが最

◆重粒子線がん治療の費用負担イメージ◆

■公的医療保険適用の場合

公的医療保険適用	
(重粒子線治療)	(診察・検査・薬代など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●骨軟部腫瘍</li> <li>●頭頸部腫瘍</li> <li>●肝細胞がん(長径4cm以上)</li> <li>●肝内胆管がん</li> <li>●膵(すい)がん</li> <li>●大腸がんの骨盤内再発</li> <li>●子宮がん(頸部腺がん)</li> </ul>	237万5千円 (照射回数によらず)
●前立腺がん	160万円 (照射回数によらず)
自己負担 <sup>※</sup> (3割)	保険給付 (7割)

※公的医療保険適用の自己負担割合は年齢等によって異なります。  
※自己負担分については、高額療養費制度が利用可能です。治療が決まれば、事前に「限度額適用認定証」を保険者に発行してもらえば自己負担限度額の支払いで済みます。これにより、窓口での支払いは標準的な所得の家庭ではおよそ10万円程度になります。

■先進医療適用の場合

先進医療部分 (重粒子線治療)	公的医療保険適用	
●上記以外の先進医療適用のがん	(診察・検査・薬代など)	
314万円 (照射回数によらず)	自己負担 <sup>※</sup> (10割)	保険給付 (7割)

※先進医療費をカバーする民間保険(「先進医療特約」など)が利用可能です。

も大きなメリットではないでしょうか。医療を提供する側としても、保険適用の対象が広がることで、重粒子線がん治療を諦めなくて済む人が増えることはとてもうれしいことです。

■重粒子線がん治療の今後の展望などについて教えてください。

今回、新たに五つの部位に公的医療保険が適用拡大となりましたが、残念ながら肺がんや子宮頸部の扁平上皮がんなどは見送られました。収集された全国登録データでも、既存のエックス線治療を上回る成績を示すことができたと思っただけに残念です。ただ、五つの部位が新たに公的医療保険に適用されたことは、重粒子線がん治療の優れた有効性や安全性が科学的根拠をもって更に認められたということでもあります。次の保険適用につながる大きな一歩だと言えます。

これまでの経験から、公的医療保険の適用部位が拡大されると、治療を希望される患者さんが増えることが予測されます。重粒子線がん治療を希望する患者さんすべてに応えるためにも、スタッフの増員など、診療体制の更なる充実を今後も図っていきたいと思います。